

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100212		
法人名	有限会社 美大		
事業所名	グループホーム大河	ユニット名	グループホーム大河2号館(聖花)
所在地	宮崎市古城町長田5911番地		
自己評価作成日	平成30年9月11日	評価結果市町村受理日	平成30年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JivvosyoCd=4590100212-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JivvosyoCd=4590100212-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成30年10月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑あふれる田園地帯のなか、満開の桜並木、蟬の合唱、田畑の実りなど、四季の移ろいをからだ全体で感じられます。ぽかぽかと降り注ぐ太陽やそよ風のなか、入居者様は澄んだ空気を味わいながら、ゆっくりと散歩されたり、ウッドデッキで集まり、話しの花を咲かせられています。私達は、入居者様を人生の先達として敬意を表し、安穏な生活を送って頂けるよう、心を寄せて、手を添えて支援いたします。入居者様の急変時や日常の健康状態管理もホームの正看護師や薬剤師が24時間対応しています。協力医療機関との連携も密で、訪問歯科医は、職員会議や運営推進会議にも参加頂き、アドバイスをうけています。入居者様の自立支援に向け、介護職として大きな喜びや感動を胸に、今日も明日も入居者様と一緒に人生を歩んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域との交流に取り組んでおり、地域の清掃活動や祭に参加し、保育園児や認定こども園児との交流も多々ある。地域の人から野菜や花を頂いたり、散歩の折に立ち寄られる人もおり、年々地域との繋がりを深めている。利用者一人ひとりの状況や思いをしっかり把握して、思いの実現に職員全員で取り組んでおり、利用者はその人らしいゆったりと寛いだ生活を過ごしている。代表者と管理者は職員の資質向上のため、外部研修の受講、資格取得への支援に力を入れ、職員のモチベーションを高め、その努力や実績を評価する体制づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	グループホーム大河2号館(聖花)	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が就業前に掲示している理念を読み上げ、心に刻んだ後、私達の願いを胸に、業務に就いている。入居者様の尊厳を保持し、心穏やかな日々を送られるよう、自立支援のに向け接遇や介護技術の向上を図っていく。	グループホーム大河2号館(聖花)	運営方針を基に職員全員で話し合い介護目標を定めている。利用者の尊厳を大切にして日々の穏やかな生活を支援出来るよう、代表者、管理者、職員全員で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所は自治会に加入し、地域の行事に積極的に参加している。地域の方から野菜や花を頂く機会も多い。また、近くの古城認定こども園の納涼祭や運動会、卒園式等の季節の行事に参加し、入居者様は園児達との交流を楽しまれている。	グループホーム大河2号館(聖花)	地域の行事や清掃活動に利用者と共に参加して交流を深めている。近隣の方から野菜や花を頂いたり、立ち話をしたり、住民の方が散歩の折りに見学等で立ち寄られるなど近所付き合いを日常的に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ声かけをしたり、玄関にステッカーを貼り、地域の方が気軽に介護等の相談が出来るように支援している。散歩途中や帰宅時に見学される方もいらつしやり、認知症の方への理解や接し方、ホームでの対応の仕方なども説明している。	グループホーム大河2号館(聖花)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年3回は家族会と合同開催とし、入居者様や多くのご家族に、ホームの経営状況や外部評価の結果、介護報酬改定や感染症対策、防災対策等を報告し、ご意見は「教科書」として運営に反映している。歯科医も定期的に参加頂いている。	グループホーム大河2号館(聖花)	出席者にホームの現況をしっかりと伝え活発な意見交換を行っている。委員の意見を反映して利用者の日々の写真等を入れたファイルコーナーを設けるなど、意見や要望は早急に検討し改善に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	県や市が主催する研修会には積極的に参加し、現在地域包括支援センター主催の地域会議の運営委員として、月1回医療と介護の連携に向けて意見交換や協力関係の構築に努めている。今年6月から認知症チームケア推進研修会に参加している。	グループホーム大河2号館(聖花)	市主催の研修に参加し、市からの委員等の依頼にも応えている。代表者と管理者は市窓口に向き、ホームの実情や取組状況を伝え、関係構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成30年4月から前指針を見直し、「高齢者虐待防止、身体的拘束等の適正化への指針」を施行。全職員に研修を行い、身体的拘束による心身的、精神的、社会的弊害を理解している。また、玄関や門扉は7:00~19:00は施錠していない。	グループホーム大河2号館(聖花)	外部研修の伝達、月1回の会議で繰り返し研修を行い職員全員で共有している。外部へ出る利用者もいるが、他ユニットの職員が見守ったり、さりげなく付き添い散歩するなど利用者が抑圧感を感じない生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で2か月に1回行われる身体的拘束等の適正化推進委員会の振り返りを行い、高齢者虐待防止法や指針について学んでいる。全員で身体的拘束等の禁止に取り組んでいる。家族会、運営推進会議でも虐待みついで意見交換をしている。	グループホーム大河2号館(聖花)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム大河2号館(聖花) 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議で学び、入居者様個々について考えると共に、家族会でも成年後見制度や日常生活自立支援事業の内容を説明し、家族の立場からも活用できるよう相談の場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間をもって読んでいただき質問を受け、不安や疑問等のないように説明している。改定は家族会に諮り、個々に文書で同意を得てから、変更の手続きをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム入り口にご意見箱を設置したり、年3回の家族会で得られたご意見を教科書として運営に反映している。個々の要望は介護計画や介護方法に生かし、全体へのご意見は職員会議等で全職員に周知している。	面会や来訪時に声かけして、意見や要望を聞いている。職員全員で話し合い早急な改善に取り組み、その結果を家族会や運営推進会議で報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、毎月の職員会議に必ず参加している。また日々職員との交流も密であり、職員の意見や提案には真摯に耳を傾け、職員のモチベーションを高めながらチームの連携を図っている。	代表者も職員会議に参加し、職員の意見や提案を聞き、実施する体制が出来ている。日頃から言いやすい環境で、研修への参加や資格取得を支援するよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一定水準を平均点とし、個々の努力や実績に応じて加算する方法で処遇している。各自がキャリアアップを志向し、資格取得や介護技術、接遇向上の為に研修へ毎年全職員参加できる勤務シフトを組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経歴や実績に応じてキャリアパス対応生涯研修や実務者研修、実践者研修等の資格研修等に積極的に派遣している。新人職員には、経験豊富な職員をマンツーマンで配置し研修できる環境作りを努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設時から、医療機関系列のグループホームと毎月交流し、接遇や介護技術を学び、質の向上を図っている。また、病院や地域の多職種間会議やグループホーム連絡協議会などの同業者間での意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	グループホーム大河2号館(聖花)	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員はご本人の生活リズムや習慣を第一に、見守りながら、ご本人に寄り添い、心の声を傾聴する。職員間で情報共有を行い、信頼関係の構築、職員が間に入り他の入居者様との良好な関係作りを勧めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に重要事項説明書やセンター方式の暮らしの情報に基づき、詳細に協議している。ご家族の不安や要望には懇切、丁寧に対応し、ご家族との良好な関係を築いている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の身体、精神情報を把握し、ご本人、ご家族と協議の上、医療機関や歯科医療機関受診やインフォーマルな社会資源の利用を含めた介護計画を立て、適宜、ご本人やご家族と見直し行い支援している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の残存能力を見極め、能力の活用を図り、生きがいや日々の達成感をもっといただけるようようサポートしている。職員や他の入居者様との仲間意識の醸成にも努め、助け合って生活している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も支援者の1人と考え、様々な情報を共有し、話し合いを深めることで一緒になって入居者様を支えている。また、ご家族のこだわりも大事にしながら、良い関係が築けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昼夜、面会は自由である。ご家族やご友人が笑顔で帰られ、また気持ち良く訪問して頂けるように配慮している。ご本人の行きたい所、会いたい方はご家族に伝え、職員対応での外出付き添いも行っている。	知人、友人の来訪時には声かけして利用者の様子や、思いを伝え訪問が継続するよう支援している。家族の協力も得て、馴染みの美容室や墓参り、馴染んでいた店に出かけるなど外出支援に取り組んでいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格や相性を考慮し、入居者様間の良好な関係の構築に努めている。孤立されない様に細心の注意を払い、職員がパイプ役となってホーム内の融和を図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	グループホーム大河2号館(聖花)	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の際には、ご本人の生活状況や習慣、好きな物等詳しく伝え、環境変化のダメージを最小限に抑える努力をしている。また、退居された方の家族と交流があり、面会を希望されたら何うようになっている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個性、価値感、生活リズムを把握し、ご本人の思いに寄り添いながら、希望を最優先に叶えるようにしている。意思表示ができない時は、ご本人の人生歴、生活歴、ご家族からの助言から、把握し、支援している。		センター方式(認知症の人のためのケアマネジメント)を活用して一人ひとりの思いの把握に努めている。寄り添う時間を持ち、言葉や表情など記録に残し、職員全員で共有して支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や入居前の病院や施設から詳細な情報を収集し、ご本人の習慣や価値感、健康状態等の生活歴、人生歴を把握し、職員全員で情報を共有し、介護計画や方法の選択に活かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は多種多様な視点で、一日の生活リズムや接遇の把握に努め、看護師、薬剤師を交えたチーム全体で情報を共有している。更に、ご本人が出来る事や潜在能力を探り、自立支援の方法を話し合っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員で入居者様の人生歴や生活歴の把握に努め、職員会議では担当職員が主導となり、他職員とご本人やご家族の意見を汲んだ残存能力がより活かせる介護計画作成に積極的な意見交換を行っている。		担当者と計画作成担当者のモニタリングを基に職員会議で意見を出し合い介護計画の作成、見直しを行っている。利用者からは日々の寄り添うケアで、家族からは面会時に、意見や要望を聞き把握するよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の発言や行動、職員の気づきやアイデアを個別日誌に必ず記載し、情報を共有している。また、個別カンファレンスで多職種間で意見を出し合い、自立支援に向け介護計画の見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族とのコミュニケーションを密にし、現状のニーズを把握し、柔軟な支援に努めている。また、外部サービスや訪問マッサージ等の支援やホーム内での園芸も自由のできる体制作りを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	グループホーム大河2号館(聖花)		外部評価		
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然豊かな里地に立地し、桜並木や緑や草花と触れあう散歩や、ホーム南側の古城川には野鳥や魚の群れも観察できる。古城認定こども園との季節の行事毎の交流や小学校の登下校挨拶等の交流もある。					
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望で、入居前のかかりつけ医受診や協力医療機関、協力歯科医療機関の受診、訪問診療、往診の選択が可能である。訪問医、歯科医と連携は密で情報を共有、早期の相談が可能である。					
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、常に心身の状態を把握、変化があればホーム看護師、薬剤師へ相談し、指示を受けている。訪問看護時は、身体状況、ADLを詳細に報告し、看護師からホーム申し送り簿に記載頂き、連携している。					
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院当日に当ホーム看護師や介護支援専門員から提供書をお渡しし、環境変化によるストレスや負担の軽減に努めている。入院中はお見舞いに伺い、医療関係者とのカンファレンスでホームで可能な生活リハビリ等を伝え、早期退院に向け、支援を行う。					
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの方針をご本人、ご家族に説明、ご理解頂いている。病状進行に伴い、改めて意向を確認し、看取りの場合はご家族、主治医、訪問看護、ホームの管理者、薬剤師、看護師が密に連携し、希望に添った支援が出来るようにしている。		利用開始時に方針を説明している。終末期には、医師の判断の下、家族と話し合い、意向を再確認して、医師、訪問看護、職員全員で体制を整え支援している。看取りの実績も多々あり、代表者、管理者、職員全員で取り組んでいる。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年開催される消防署の救命講習に職員は必ず参加している。また、当ホーム看護師のアドバイスで職員は実践力をつけている。AEDを設置し、初動体制を築き、定期的な使用練習もしている。					
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な災害に対して昼夜を想定した訓練を毎月行っている。年2回は地域の方や消防点検業者に訓練に参加頂いている。また、食料の備蓄や地域住民、地元消防団への応援をお願いし、緊急時に備えている。					

自己	外部	項目	自己評価	グループホーム大河2号館(聖花)	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は人生の先輩としての入居者様に敬意を表し、言葉づかいや態度に十分に配慮し、尊厳を大切にしている。職員間の会話では入居者様のプライバシーを考慮し、排泄時には羞恥心に配慮し対応している。	グループホーム大河2号館(聖花)	利用者の人格を尊重し、敬意を払った声かけを実践している。利用者のいる所での職員間の会話に気配りしている。排せつの際は、表情や仕草を観察して羞恥心に配慮した支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何を行うにしても、先ず入居者様の意思や希望をお聞きしてから援助を行っている。言葉では十分に意思表示の出来ない方は、ご本人の表情等をよく観察し、希望や好みの把握に努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の状態や希望、生活ペースに沿って食事時間、起床、睡眠時間、お風呂や外出等を行っていただいている。毎日楽しく安穩に過ごしていただけるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望を尊重し、美容師資格を持つ職員が定期的に髪のカットや白髪染めをサポートしている。おしゃれは、その人のこだわりを大切に思いをかなえている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立以外のご希望があれは、臨機応変に対応している。残存機能を保持の為、調理や下膳、食器洗いを職員と一緒に、食に興味をもって頂いたり、旬の食材を取り入れ、目でも楽しみ味わって頂いている。	グループホーム大河2号館(聖花)	野菜の切り込みや食器洗い、下膳などに応じて利用者も担っている。テーブルを囲み、職員も介助しながら一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は医療機関の管理栄養士に相談し、作成している。食事量や水分量はチェック表を作り、職員間で把握している。摂取量の少ない方は、好みの物や、お茶ゼリーを提供するなど、工夫して支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医療機関との口腔衛生管理体制を整備し、ブラッシング方法や、各入居者様の口腔状態に応じたケアのアドバイスを頂き、職員が口腔ケア体操や歯磨きを一部介助し、口腔衛生保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	グループホーム大河2号館(聖花)	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツ使用維持を目標として、各入居者様の排泄の間隔や排泄量を日誌に記録、排泄パターンや体調を考慮して、トイレ誘導や、自立支援を行っている。夜間頻尿は主治医と連携し、改善に取り組んでいる。	布パンツ使用維持を目標として、各入居者様の排泄の間隔や排泄量を日誌に記録、排泄パターンや体調を考慮して、トイレ誘導や、自立支援を行っている。夜間頻尿は主治医と連携し、改善に取り組んでいる。	排せつチェック表を活用しさりげない誘導で、自立でトイレでの排せつを支援している。入所時はオムツや紙パンツ使用の利用者も状況を確認しながら、布パンツへの改善に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に毎朝ヨーグルトや牛乳の摂取を勧め、料理には食物繊維の多い物を取り入れ、水分も多く摂取いただいている。また、ホームの花畑や、里地の立地条件を活かし、屋外への散歩にも誘導している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その人の習慣や、当日の心身の状況を考慮しながら柔軟に対応している。拒否のある方は、時間をおいて余裕を持った声かけを行い、介助者が同性でないと恥ずかしい場合は、介助者を交替するなどしている。	毎日入浴出来る体制があり、利用者の状況や希望に合わせ、隔日を目安に支援している。入浴を拒む場合は、時間をずらしたり、介助者を変更して柔軟に対応している。季節に応じ、ゆず湯や菖蒲湯も楽しめるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に体操やレクリエーション、家事活動で身体を動かしたり、ナイトミールでホットミルク等の提供をしている。不安や心配事のある方には職員が寄り添い、傾聴し、心地よい眠りにつける様に支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬防止マニュアルを遵守し、複数の職員で服薬から投薬後の確認を行っている。薬剤ファイルやアセスメント資料で情報を把握でき、不明な点は、薬剤師、看護師と24時間連絡可能で随時確認し、共有している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴を把握し、得意な事や趣味を楽しみ、毎日潤いのある生活を送っていただけるよう努めている。また、ゲーム等のレクリエーションを通して入居者様間の融和や、会話の機会を設けている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の機会を作る為に、ご本人の希望を伺い、ご家族からの協力も得て、できる限り多くの外出計画をしている。地域のイベント参加の誘いも多く、病院の夏祭り、保育園の運動会等にも積極的に参加している。	散歩や地域のイベントなど外出の機会は多いが身体状況で外出が困難な時は、ウッドデッキや園庭で外気浴を楽しんでいる。利用者の希望で、近くのスーパーやドラッグストアに買い物に出かけるなど柔軟な対応に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			グループホーム大河2号館(聖花)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の金銭所持の希望に沿うように、ご本人、ご家族との話し合い後、ご本人管理で行う。ご家族の意向で、事務所管理の方は、金庫に保管、必要時にご本人にお渡しし、ご家族に出納帳の確認、同意頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの申出があれば、ご家族や友人に電話できるようサポートしている。また、手紙の代筆を手伝ったり、ポストへの投函を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、季節を感じられる職員手作りのものや入居様が工作されたものを装飾したり、地域の方から頂いた花や、入居様が散歩途中で集めた草花が飾られている。童話や懐メロ、カラオケが流れている。	照明、温度、換気などに配慮している。キッチンが対面式になっており、食事の準備の音や匂いがあり生活感を感じさせる雰囲気になっている。ソファや畳スペースがあり、利用者がゆっくり寛げるスペースが設けられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の相性を考慮して、ホールの席や部屋の配置をしている。3人掛けのソファもあり、仲の良い入居者様同士で座り、昔話に花が咲くことも多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ自宅で使っていた家具や仏壇、写真等をご家族に持ってきていただき、居心地良く安心して過ごしていただけるように配慮している。	家具や神棚、写真など持ち込まれるよう助言し、利用者にとって居心地良い居室になるよう支援している。各部屋にウッドデッキがあり、利用者は居室から自由に出入りして、寝具を干したり、椅子で寛いでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内外はバリアフリーで、廊下に手すりも設置し、トイレや洗面所の場所も大きな字で掲示している。自立歩行も安全にできる様に、職員の見守りの中、可能な限り、ご本人だけで行動していただくようにしている。		